

奨学寄付金のお願い

拝啓

当研究室のホームページをご訪問くださり、どうもありがとうございます。

当研究室では、「科学技術によって医薬の進歩に貢献する」という理念のもと、「機械で臓器が作れるか？」をテーマに、研究室のメンバー一同、日々精励いたしております。

「臓器を作る」ことは、移植臓器がなくて困っている人々の生命を守ることに直結します。そして、「臓器を待つ時代」から「臓器を作る時代」に進化させられます。

iPS 細胞が発明され、どんな臓器でも作れるとされています。しかし、実際は、細胞が得られてもただ培養するだけ、ただ移植しただけでは組織や臓器は決してできません。そこで、私たちは、細胞から臓器を作る技術とそのための装置を開発するところから始めました。最近、テレビやメディアでも取り上げられ有名になっている「3D-バイオプリンター」もその装置の一つです。

また、「臓器を作る時代」が実現するためには、いくつもの工程や安全に確実に製造するための基盤技術やインフラが必要となります。今は細胞培養の工程もすべて研究者や技士さんの手作業で行われ、できることは限られています。そこで、中村研では、それぞれの工程においても「機械で臓器を作れるか？」のチャレンジを行っています。

私は、これまでの産学連携研究の経験から、大学研究の最たる任務、ミッションは、新しい可能性にチャレンジして、まだ世の中になかった新たな技術を生み出すところにある、と感じています。特に工学は、「もの」を作って社会に供し社会に貢献する学問です。様々な問題や課題に対してそれを解決する「ものや装置」を生み出せば、新しい世界が生まれます。臓器を作る装置を産み出せば、臓器を作る時代、臓器を作る世界が開けます。それこそ、工学の工学たるゆえんです。また、新技術創出のための研究は、新時代の市場がブレイクするはるか前に、世界に先駆けて技術や装置の開発に取り組むことができます。

しかしながら、このような前例のない夢のような研究にはなかなか研究費がつかないのが実情です。企業は収益に見合う研究にしかお金は出せませんし、国の研究費も課題に合ったテーマでなければ獲得が困難な時代になりました。頼みの大学も国からの運営費交付金が減らされ窮してしまい、教員はそのままではまともな教育研究さえできなくなってしまいました。

そこで、お願いです。

「科学技術によって医薬の進歩に貢献する」「機械で臓器を作れるか？」の私の研究室の理念と研究活動に共感くださる方、また「臓器を作る時代」の実現に共感・ご賛同くださる方は、ぜひ、中村研にお力添えをお願いしたく存じます。

奨学寄付金のお願い

大学には、「奨学寄附金」という制度があります。この奨学寄附金は、全く自由なテーマの研究、あるいは教育ができる資金になります。すべて大学（国立大学法人）の規則に則り使用しますので、研究教育活動以外のことには使われません。中村研では、「臓器を作る時代」の実現目指して、または、「医薬の進歩に貢献する」ことを目指して、有効に利用させていただきます。

奨学寄附金の手続きは、大学のホームページの産学連携部門の「[寄附金](#)」というところをご参照ください。

<http://www.u-toyama.ac.jp/jp/tis/index.html>

なお、中村研でなく、富山大学全体の活動に寄付を希望される方は、富山大学基金に寄付するという方法もあります。ただし、この場合は、中村研の活動にはほとんど回ってきません。

以上の趣旨をご理解の上、何卒ご支援をよろしくお願い申し上げます。

さらに詳しいことは、ご遠慮なく、研究室秘書まで、ご一報ください。

takamif@eng.u-toyama.ac.jp

敬具

平成 26 年 7 月 11 日

富山大学 大学院 理工学研究部（工学） 教授 中村 真人 拝